

「ともに一つのパンを食べる」

マタイ 26 章 26-29 節

「また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」

また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。

これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」

今月は世界平和月間です。そして、今週は、コイノニアが予定されています。コイノニアとは、親しい関係性、交わりを表わすギリシア語です。

今年のコイノニアは TEENS の中高生たちが韓国のテバン教会を訪問します。

去年は、テバン教会の中高生たちをめぐみ教会にお迎えしました。

去年の TEENS コイノニアの証集がありますけれども、コロナの影響もあって、久しぶりに行われた、コイノニアの素晴らしい証しが溢れています。

これまでのコイノニアの証しで私が個人的に忘れられないのは、洪先生が青年主事の時代に、青年コイノニアでテバン教会を訪問したときの証しです。

事前準備から、コイノニア期間中の奉仕、通訳のことや説教のことや、青年主事としての責任、色々なことで緊張していた洪先生が、韓国でめぐみ教会の青年たちとテバン教会の青年たちがキリストにあって一つであるということを目の当たりにして感動したということです。

そして、それだけでなく、日曜日の夜にチムジルバンで顔パックをして、「ああ～、牧師やってて良かった～。俺はイエス様に肯定されている存在なんだ～」としみじみ思ったそうです。明洞でタックカルビを食べたり、パピンスやパフェを集合時間に遅れてまで青年たち皆で共に食べてコイノニアを満喫したという証しです

。

互いの色々な緊張から解放されて、共に礼拝をして、共に食べて、共に時間を過ごして、豊かな交わりのときとなるのがコイノニアです。

去年の TEENS コイノニアも「食べる」ということがテーマでした。

共にみことばを食べ、共に韓国料理を食べ、そして、めぐみ教会の中高生たちと、テバン教会の中高生たちが一つになっていく、そのような証しが溢れていました。

韓国人の友人ができた。大切な友人が住む大切な国になった。一緒に美味しいカレーを作った。仲良くなれた。同じ神様からの恵みを受け取ることができた。神様によってつながることができた。もっと一緒にいたい。来年のコイノニアが楽しみだ。

このようなコイノニアの交わり、共に一つとなる祝福があります。

私たちはイエス・キリストの十字架ゆえに、神との親しい関係性、コイノニアが回復しました。さらに私たち同士も互いに深く交わり、一つとなるコイノニアの恵みにあずかることができます。

私たちが一つであるということを体験する機会の中の一つに聖餐式があります。共に集い、共にパンを食し、共にぶどう酒を飲む聖餐式です。

その中心にはイエス・キリストがおられます。

イエス・キリストを通して、コイノニアが実現しました。そのコイノニアの恵みを私たちは聖餐式において受け取ります。めぐみ教会とテバン教会のコイノニアの交わりも歴史がありますが、それ以上に、聖書のコイノニアには旧約聖書からの歴史、壮大な神様のご計画がありました。

マタイの福音書は、「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。」(1章1節)という書き出しから始まります。新約聖書なのに旧約聖書の人物が登場するということで、初めて新約聖書を開かれた方は驚くかもしれません。

新約聖書の土台は旧約聖書であり、旧約聖書の延長に新約聖書があるということなのです。そして、ただ話が続けているということではなく、旧約聖書から新約聖書に至るまでの壮大な神様のご計画があるということでもあります。

旧約聖書の時代に主なる神様が人類の救いのために備えられていたご計画、預言者を通して語られたコイノニアの回復、救いの約束の成就が新約聖書に記されているのです。

今まさに私たちは、イエス様と共に神様のご計画の中に生かされているのです。私たちが神様のコイノニアのご計画の中に生かされているということを、覚えるために神様が備えてくださったものが聖餐式であります。

本日の聖書箇所は、イエス様が行われた最初の聖餐式の場面です。私たちがささげる聖餐式の豊かさを深く考えたいと思います。

聖餐式が行われたのは、イエス様が十字架にかかれる前、最後の晩餐の席でありました。26章において、イエス様は2日後の過越の祭の日にご自身が十字架につけられることを弟子たちに告げられています。

マタイ 26 章 1-2 節

「イエスはこれらのことばをすべて語り終えると、弟子たちに言われた。「あなたがたも知っているとおりに、二日たつと過越の祭になります。そして、人の子は十字架につけられるために引き渡されます。」」

新約聖書の土台は旧約聖書であり、旧約聖書の壮大なストーリーの延長に新約聖書があるということですが、最後の晩餐となった過越しの祭も旧約聖書の中の大きな出来事でありました。

アブラハムの子孫として、増え広がったイスラエルの民ですが、ヤコブの時代にエジプトへと移り住むことになります。その後、民はエジプトの奴隷となり、苦しめられることになります。

人々の苦しみをみた神様は、モーセを通して民を救い出そうとされるのです。神はモーセを通してエジプトの王パロを苦しめます。10の災いです。しかしパロは頑なに奴隷たちを解放しようとしません。神は、最後の計画を実行します。10番目の災いです。ある夜、主がすべてのエジプト人の家の長男や動物の初子を殺していくというものです。

イスラエルの民に対しては、子羊を屠り、その血を家の門柱と鴨居に塗っておくよう命じます。そのようにして小羊の血を塗ってある家は、その小羊の犠牲に免じて、災いを「過越し」てくださるというのです。

これが過越しの祭の由来です。主が奴隷の苦しみから人々を救い出してくださった。その出来事を記念して、覚えて、お祝いするようにと主なる神様が定められたのです。

出エジプト記 12 章 14 節。

「この日は、あなたがたにとって記念となる。あなたがたはその日を主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠の掟として、これを祝わなければならない。」

イエス様も弟子たちと共に、過越しの祭の祝いの席にいたのです。

マタイ 26 章 26 節

「また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」」

過越しの祭において、食事の最初に、一家の長はパンを裂き、それを祝福しました。最後の晩餐においては、イエス様がパンを祝福し、パンに新たな意味を与えることばを加えたのです。

そしてエジプトでの奴隷からの解放を覚える過越しの食事が、イエス様の十字架によって、人々が罪から解放されたことを覚える聖餐式となったのです。そして、人々は主の再臨と終末を待望しつつ、聖餐式を守り行うようになりました。

イエス様は「パンを取り、神をほめたたえてこれを裂き」ました。そして「これはわたしのからだです」と言われました。イエス様は過越しの食事で食べるパンに新しい意味を付け加えたのです。この裂かれたパンは、十字架上でのイエスのからだを象徴するのです。

「取って食べなさい。これはわたしのからだです」、私たちはパンを食べることによっていのちを得ます。

「これはわたしのからだです」と言われたイエス様は、十字架の死によって、私たちの罪を赦し、罪ゆえに死ぬべきであった私たちにいのちを与えるというのです。

ここで大事なことは、パンは一つであるということです。弟子たちはイエス様が手にしたひとつのパンを共に食したのです。一つのパンをイエス様が裂いて配り、弟子たちは食しています。

最初からそれぞれ一つずつのパンが配られていて、各自それを食したわけではないのです。

私たちの聖餐式はどうでしょうか。すでに分けられたパンをそれぞれに受け取っていますので、元々是一个のパンであった、イエス様は一個のパンから弟子たちに配られたということをあまり考えずに、パンを受け取り、食していることがあるかもしれません。

イエス様は一個のパンを手にされ、それを裂き弟子たちに配られました。そして言われました。「これはわたしのからだです」。そうです。一個のパンは、イエス様のからだなのです。私たちの唯一の救い主イエス・キリストのからだなのです。一度限り、ささげられたイエス・キリストのからだなのです。

私たちが受け取るパンは一つなのです。弟子たちが受け取ったパンも、そして私たちが受け取るパンも一つのパンです。

そう考えますと、聖餐式でパンを受け取る時の気持ちが変わるような気がいたします。

イエス様は、この一つのパンを取り、「神をほめたたえ」ました。私たちが皆が、一つのパンを受け取っているということを思い巡らすとき、神をほめたたえる思いになるのではないのでしょうか。

神様の壮大な救いのご計画です。旧約聖書から、そして新約聖書に至り、今私たちがイエス・キリストの救いにあずかっているという、人類の歴史、時空を越えて、私が今、一つのパン、一つのからだを受け取っているのです。

当たり前ではなく、驚くような出来事を、聖餐式において私たちは経験しているのです。

マタイ 26 章 27 節

「また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。」

続けてイエス様は杯を手にとられました。「みな、この杯から飲みなさい」。パンが一つであったのと同じように、この杯も一つでありました。イエス様が手にしていた一つの杯から弟子たちはぶどう酒を飲んだのです。

私たちの聖餐式では、皆で一つの杯から飲むということは難しいので、はじめからそれぞれの杯にぶどうジュースが入れられています。ですから一つの杯ということをイメージすることは難しいかもしれません。私たちが、杯からぶどうジュースを飲むときに、これはイエスが手に取った一つの杯であったと意識しなければ、手元にあるただの一杯のぶどうジュースになってしまいます。

ぶどう酒は、イエス様が十字架で流された血を表わしています。一度限りの十字架の血です。唯一私たちの罪を完全に赦すことができる血です。イエス様が弟子たちに飲ませた、一つの杯です。その杯の恵みを私たちが今受けているのです。

マタイ 26 章 28 節

「これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。」

イエス様は杯のぶどう酒について、これはわたしの血であると語ります。ぶどう酒はイエス・キリストが十字架上で流された血を表わしています。

その血についてイエス様は語っています。その血は、「多くの人のために流される血」であること、そして、「罪の赦しのために流される血」であること、さらに、「契約の血」であると語られます。

第一に、「多くの人のために流される血」であると言われます。一杯の杯のその血は、わずかな人のため、選ばれた特別な人のため、ではなく、多くの人のための血であるのです。一杯の杯のその血は、多くの人に分け与えられ、多くの人々がその一杯の杯から恵を受け取ることになるのです。旧約聖書の預言でもありました。

イザヤ 53 章 12 節

「彼は多くの人の罪を負い、背いた者たちのために、とりなしをする」

イエス様が多くの人のために血を流してくださったゆえに、この私もその恵みにあずかることができます。

次に、その血は、「罪の赦しのために流される血」でありました。いけにえの血であり、身代わりの血です。旧約聖書の時代、動物の血によって人々の罪が赦されてきました。人々は何度も何度も動物の血を流さなければなりませんでした。しかし、イエス様は、一杯の杯、一度限りの十字架の死を持って私たちに罪の赦しをもたらしてくださるのです。すでに私たちの罪は赦されているのです。これ以上流される血は必要ありません。

イエス様は民のために、そして多くの人々の「罪の赦しのため」のいけにえとなられたのです。イエスの血ゆえに人々の罪は赦される。と旧約聖書の預言者イザヤも預言をしていました。預言の成就がイエス・キリストの十字架なのです。

そして、イエス様の血は「契約の血」であると言われます。「契約の血」もまた旧約聖書の出来事であります。エジプトからイスラエルの民を導いたモーセがシナイ山のふもとで、民に神の律法を呼んで聞かせました。民がそれを守ると約束すると、いけにえとしてささげられた動物の血が、祭壇に一部振りかけられ、民に一部振りかけられ、そしてモーセはそれを、「主があなたがたと結ばれる契約の血」（出エジプト 24 章 8 節）であると言ったのです。

しかし、イスラエルの民の歴史を見れば、神の命令に従わず、この契約を破ってしまったことが記されています。それでも、神はイスラエルの民を「契約の血」による民と呼ばれていました（ゼカリヤ9章11節）。預言者エレミヤは、神は民と「新しい契約を結ぶ」（エレミヤ31章31節）と預言をしていました。

イエス様が新しく私たちに与えてくださった契約、つまりイエス・キリストの十字架と復活によって私たちの罪は赦されている、そのことを信じ受け入れる者は救われるという約束が与えられました。

私たちは一杯の杯の恵みを受けつつ、新しい契約の民であることを覚えるのです。ルカの福音書ではイエス様は「わたしの血による、新しい契約です」（ルカ22章20節）と言われています。それは、信仰者が主の恵みを常に思い起こすための聖餐式の制定でもありました。イエス様の十字架によって自分たちが神の契約の共同体に属していることを覚えるものでもあります。「わたしを覚えて、これを行いなさい」（ルカ22章19節）と言われ、その聖餐が繰り返させるべきであると教えられたのです。

マタイ 26 章 29 節「わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」

「わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日」、それはイエス様が再び来られ、救いの完成する日のことです。

パンと杯についてのイエスの言葉は、イエス様の死を思い起こさせますが、死んでよみがえられたイエス様が再び来られるということにも私たち心に向けなければなりません。そして、イエス様によって与えられる私たちのいのちは、永遠のいのちであり、天の御国に導かれるいのちなのです。

聖餐にあずかりつつ、私たちはいかに生きるべきでしょうか。イエスさまが再び来られるそのときまで、私たちは、聖餐式において、死んでよみがえられたイエス様が、共におられることを意識しつつ、イエス様とのコイノニアの交わりを持ちつつ、共に聖餐にあずかる私たち互いのコイノニアの交わりを持ちつつ、再びイエス様にお会いするまで、この地上での生涯、信仰を持って生きたいと思います。

「新しく飲むその日」、その新しさとはなんでしょうか。この地上で繰り返される聖餐式とは比べることができないほどの、素晴らしい食卓の席なのでしょう。

その素晴らしい食卓を待ち望みつつ、残された地上の歩みを、コイノニアの交わりの中で、誠実に歩み続けたいと思います。

私たちの歩みは孤独な歩みではありません。

I コリント 10 章 17 節

「パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。皆がともに一つのパンを食べるのですから。」

私たちは皆、同じイエス・キリストの十字架の罪の赦しを受けて共に生きる、コイノニアの交わりの中に生かされています。キリストにつながり、互いにつながり、一つとなるのです。

私たちのうちにキリストが生きておられ、キリストの救いがあり、赦しがあり、愛と恵みが溢れているのです。